

— 通報連絡員と災害対策本部の速やかな連携を目指す —

安否確認訓練

大田区 東京サーハウス自治会



シミュレーション計画に基づき、トランシーバーを活用して現場と災害対策本部とが速やかに連携する安否確認訓練を行いました。

事業名：東京サーハウス防災訓練

実施期間：平成26年4月13日～平成26年11月9日

参加人数：120名程度

事業費総額：約40万円

事業の概要(訓練内容)

訓練開始のアナウンスを流し、住民に無事を示すニコニコマークを玄関ドアに掲出してもらう

●災害対策本部の開設

①本部席、ボランティア席等の準備、②安否確認コーナーの設置、③ボランティア受付の設置

●損壊報告

①建物の損壊情報を確認、②立ち入り禁止措置

●安否確認報告

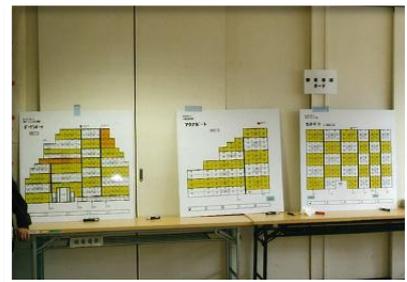
①通報連絡員が担当住戸の安否を確認、②通報連絡員は確認状況を本部の安否確認ボードに記入

●救助訓練

①救助要請を受ける、②現場を確認、③病院受け入れを確認、④リヤカーで病院に搬送

●帰宅車誘導

①帰宅車を誘導、②縦列駐車を依頼



▲本部に安否確認ボードを設置



▲通報連絡員からの安否確認情報をボードへ記入

主な経費

〈助成対象経費〉

物品購入費：業務用無線機、イヤホンマイク、スピーカーマイク、乾電池ケース

役務費：無線局免許申請費

事業実施のスケジュール

- 4月 訓練計画概要審議、通報連絡員宛説明会
- 6月 訓練計画骨子策定
- 7月 トランシーバー実地テスト、訓練計画決定
- 9月 訓練計画を居住者、通報連絡員、ボランティアに説明、事業を周知
- 10月 訓練の実施
- 11月 反省会



▲担架とリヤカーで要救護者を病院に搬送



▲帰宅車の誘導状況を報告



▲建物の損壊情報をもとに、立ち入り禁止措置を取る



▲本部と現場で救助に必要な情報を共有

事業の効果

- 防災意識の維持
過去に登録されたボランティアの自発的参加が約20名あり、防災意識の維持を確認できた。
- 実践的な訓練
トランシーバーを使用することで、複数の場所で連携した同時並行での訓練を行うことができ、実際の災害時を想定した訓練を行うことができた。